

平成29年度 第1回古賀市文化芸術審議会議事録

日 時：平成29年5月23日（火）14時00分～15時30分

場 所：市役所第1庁舎4階第3委員会室

出 席：審議会委員 緒方泉会長、中山早由利副会長、加藤潤二委員、坂崎隆一委員、志賀満江委員、
豊村良子委員、西野宏委員、平井康之委員、結城俊子委員、米倉小夜子委員

行 政 長谷川清孝教育長

事 務 局 清水万里子教育部長、星野美香文化課長、木村眞由美歴史資料館長

川原幸恵文化振興係長、文化振興係主事田中音羽

欠 席：審議会委員 なし

傍聴者：な し

配布資料

①レジュメ

②平成29年度文化芸術関連事業一覧

③「笑顔のつどい」のチラシ（生涯学習推進課より）

④九州産業大学美術館からのお知らせ（緒方委員より）

⑤福岡県立美術館の展覧会のお知らせ（坂崎委員より）

⑥NPO 法人古賀市文化協会からのお知らせ（志賀委員より）

⑦平成28年度第4回文化芸術審議会議事録

（司会：川原文化振興係長）

- 1 開会の言葉（清水教育部長）
- 2 新任委員への委嘱書交付（中村市長が公務により欠席のため長谷川教育長より交付）
豊村委員、平井委員に教育長より手渡しで委嘱書を交付
- 3 教育長あいさつ

本日は非常に忙しい中、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様には日頃から、文化芸術振興計画の進捗管理等ご指導いただきましてありがとうございます。感謝申し上げます。先ほど、お二人の方に委嘱書をお渡ししました。継続して委員を続けていただく方も、任期が2年という事で引き続きよろしく願いいたします。先ほど、部長の方からも芸術祭のお話が出ておりましたが、生涯学習センターの方もグランドを含め周辺整備も全て完了いたしました。4月からグランドオープンという事で、古賀市の文化芸術の拠点として新たな歩みを始めたところであります。ハード面は出来たけれども、不具合が恐らく少しずつ使われる方にとって見えてくるんじゃないかなと思っております。また人的配置等もいろんなご要望があったりする中で、市として考えていけないといけないと思っております。今後、十二分に、特に研修棟と言われていたものが、交流館として新たに出来ましたので、そこを中心に文化芸術活動が充実するのではないかなと期待をしているところであります。先週も、盛大に古賀市芸術祭が開催されたところです。古賀市内の老若男女あらゆる方に文化芸術の深まりと広がりを感じたところであります。今日は第1回目ということで、年間の実施計画の説明をさせていただきます。それでは本日も、よろしく願いいたします。

- 5 自己紹介

席順に沿って自己紹介。

6 報告事項

(1)平成 29 年度文化芸術関連事業年間カレンダーについて (田中)

それではご説明させていただきます。お配りしております文化芸術関連事業年間カレンダーをご覧ください。市全ての事業ではありませんが、現時点で日程がわかっている教育部の文化芸術関連事業を中心に掲載させていただいております。事業数がかなりあるため、今年度新しく文化振興係で実施する事業のみご説明させていただきます。まず、5月28日(日)に大人アート・バスを実施いたします。昨年度も大人アート・バスとして、参加者を美術館に連れて行き作品を鑑賞する時間を設けておりましたが、今年度より、今後の子ども対象のアート・バスの際にボランティアとして参加してもらう人材の養成講座となっております。20名の募集に対し、現在で19名の参加申し込みがあり、今後の文化芸術に対するボランティアの広がり期待しているところです。次に、9月16日(土)をご覧ください。今年度は市制20周年を迎える年となりますことから、20周年記念事業の一環として、18時~20時にリーパスプラザこが第1駐車場で「星空のコンサート」を実施する予定としております。事業は文化協会に委託することとしており、特別ゲストとして沖縄島唄「ミヤギ マモル」さんを招き、市民の部からはゴスペルの団体が出演予定としております。次に、11月19日(日)をご覧ください。3市7町で構成される福岡Iブロックが持ち回りで開催する文化芸術の祭典「福岡Iブロック芸術文化のつどい」を行います。今年度は古賀市が開催担当市となっております、この事業も同じく市制20周年記念事業の一環となります。これも文化協会に事務委託をしている事業になります。次に2月10日(土)のナイトミュージアムについてご説明します。本事業は昨年度に立ち上げ、交流館のプレオープンを祝う事業として夏休みに実施しました。大変好評だったため、今年度も引き続き実施することになりましたが、今年度は冬に計画しております。他にも、レッツトライ!プロジェクト事業が昨年度から引き続き動いております。講座等の実施は未定ですが、昨年度参加者が企画した事業の実施をサポートする予定としております。次に、今年度より新たに子ども考古学部という事業を開始いたします。古賀市内の小学生を対象に10月から1月までの月1回で開催する連続4回の講座となっております。昔の生活を実際に体験したり、船原古墳を見学したりすることで、古代の人々の知恵や古賀市の歴史に興味を持ってもらうことを目的としています。内容は、古代人の衣服や古代食作り、土器や石器作り、火起こし体験等を考えております。以上が、昨年度からの変更点となります。

(緒方会長)

非常に多い年間の事業になるわけですが、読み方とするならば、1ページ目の1番上のところに、文は文化振興係、財は文化財係、青は青少年育成課、図は図書館係、委は文化協会への委託事業で、補は補助金事業ということで、それぞれ区分されているみたいですね。それぞれの係なり課で、4月から3月までの様々な事業というのが、毎日のように展開されるというのがこの全般的なところです。まず、全般でも個別でも構いませんが、何かこの事業についてもう少し詳しく、もしくはその他で何かご質問があればそれぞれ言っていただいても構わないなというふうに思います。どちらにしても、文化協会、今日はお二人おられるわけですので、文化協会のほうからも何か言っていただいても構いません。それと、古賀市在住の方々ばかりですので、そういう意味では自分が関連する何か取り組みだとか、また豊村先生については、やっぱり中学生の子どもたちがどういふものだったら参加出来るなとか、中学校の現状も踏まえて、情報提供などしていただけるとありがたいなと思います。じゃあ米倉委員の方からお願いいたします。

(米倉委員)

先ほど書道のことを出したんですけど、一生の何か自分の生き方として続けるものを持っているといいんじゃないかなと思います。やっぱり一つのこと続けているとその周りの人間も付いてくる。自分の人生も結構豊かなものになると思うんですよ。

この間の芸術祭でも皆さん楽しんであったのを見たんですけども、歌を歌うでも、絵を描くでも、いろんな部門がありますよね。その中でも、やっぱり続けてある方というのはその方の楽しみ、死ぬまでの自分の財産になっていると思います。継続は力なりっていう言葉、文化芸術審議会では大事な言葉じゃないかなと思っているところです。人間誰しもやっぱり挫けることもあるけども、私もずっと続けてきたと言うけども、続けられない、やれないときもあるんです。そのときは、出来なかつたら明日は頑張ろうかというふうに切りかえるような気持ち、そういうものを持っていれば、いろんなことに挑戦する人になれるなと思っています。子どもにも好きなこと、小さいときにいろんな体験をさせてあげたい。お金がないと体験出来ないのが辛いんですけども、身近なもので古賀でやっているこういった体験になるべく誘ってあげたいなと私は思っております。

(緒方会長)

ありがとうございます。これ見ていただいたらわかりますけれども、本当に多様なプログラムが用意されております。子どもたちにいろいろな場面で体験をさせてあげられる環境が古賀にはあるのかなと。したがって、いろいろなものを体験する中で自分にフィットするもの、自分に合うものを探ることが出来れば、今のお話のように続けていくことが出来る。その子どもたちが今度は子どもを指導する中学生なり高校生なりにつながってくる可能性もある。僕は毎年言っていますが、これだけ多くのことをされていて本当に大変ですよって言うけれども、今の米倉委員の話にもありましたが、一つのことを選択出来るための用意がこれだけされているってこと、それは古賀の非常に素晴らしいところかなと思います。

(結城委員)

先日、古賀市芸術祭が無事に終了いたしましたけども、歴史資料館のギャラリーのほうで美術展をさせていただきました。そこでは3回目になりますけど、古賀の宝見つけたというコーナーをつくりまして、文化協会の会員さんではなく、古賀の中にこういうアーティストがいらっしゃるということで、皆さんからいろいろと情報をいただきながら、今回はひょうたん工房の三上さんのランタン、それからエアブラシアーティストの草葉さんの作品。それと、藤原京子先生の随筆ということで、3人の作品を紹介させていただきました。本当にこの芸術祭で、古賀の中にこんな素晴らしい作家がいらっしゃるということをご紹介出来る機会があつていいなと思えました。作品をこういう機会に展示させていただいたわけですけども、せっかくだから古賀には歴史資料館のギャラリーというものはあるけども、普通常設で展示できる美術館のようなものはありませんよね。いつでも何か見られるっていうようなものもあつたらいいなっていう声がありました。今回これが終わったら、倉庫みたいなところにしまうんですというお声を聞いたら何かちょっと寂しくなつて。またどこかで皆さんに見ていただく機会があつたらいいなと思えました。そして今古賀市のPRを県庁でなさっているということで、田邊議員さんもしっかり芸術祭の式典でお話をしてありました。本当に古賀にはこんな素晴らしいものがたくさんあるんだと。もちろん食の祭典では、加工食品が県内でもたくさんものがありますよとお知らせしたわけで、先ほど聞いたら2万3千人のお客さんが古賀市に集まれたということでした。古賀のすばらしさを皆さんにしっかり楽しんでいただけたと思うんですけど、私たちも文化芸術面で、すばらしい人がたくさんいる、古賀はいいところですよということをしっかり内外にPRしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

(西野委員)

先ほど偉そうに古賀の語り部なんて申しましたが、今日お見えの文化課と歴史資料館長とタイアップしながら、古賀のいろいろなものを探したり、お話したり、特に自然史・歴史講座というものが資料館にはありますので、これについては、指示があれば積極的に参加したいと思います。それと実はさっきちょっとお話ししましたが、15周年の記念誌を作って、今年の3月に教育長なり課長にお話は通しておりますけど、学校に押しつけじゃなしに、こういうものを作りましたからということでお持ちしました。今から14、5年前、古い話ですけど、古賀には20本の巨木と呼ばれるいろんな木があります。五所八幡宮のムーミンの木とか、その大きさとか年代だけじゃなく、いろいろ特色のある20本の木を古賀中学校の生徒さんが10本、古賀東中学校の生徒さんが10本見つけて、そして広報にも載りました。このたび、我々の記念誌を古賀中あるいは古賀東中にお持ちした時に、昔市が立案して、おたくの生徒さんたちにお世話になって広報にも載りましたよとお話したんですが、もうずいぶん昔のことですから当時を知る先生もおられませんで、そんなことがあったんですかと言われただけだったんですけど。ご承知のとおり、古賀にはもう一つ中学校がございます。古賀北中学校ですか。前から北中学校には、せっかく20本古賀の木を見つけたんだから、おたくでも10本見つけませんかということを行ったことはあるんですけど、こういうことをぜひ、市ともタイアップしながら、私は古賀市の巨木を30本にしたいと思うんですね。市外の方に自慢できる木、年代とか大きさとかじゃなく謂れのある木、これを私の念願としております。ちょっと話がずれたかもしれませんが、記念誌を持って行って私を感じたことでした。以上です。

(緒方会長)

さっきの結城委員の話は、芸術祭で古賀の宝見つけたってというコーナーで3人の方々の紹介をしてくれていて、こういう方々の作品が常設でいつでも見られるような場をつくってもらいたいということでした。それと、次の西野委員の話でいうならば、巨木というワードは、このPVの古賀プレゼンテーションの中でも、ムーミンの木の話などで出てきます。その巨木をじっと見てると、何か見えてくるなんてこともあって。このようなすばらしい本当にいろいろな視点でプレゼンが始まっている。僕は食べ物ばかりなのかなと、この間も市長がうまかつちゃんが出てたから。古賀市と焦がしでゴロがすごいなど。これも古賀プレゼンと子がプレゼンですごいよねと。だけれども、ここに文化芸術というのをどうコミットしていつ前に出していくのかと。今後第4編として古賀の文化芸術で古賀プレゼンをまたしていただけたらいいなと思うところです。ありがとうございます。次、中山委員お願いします。

(中山副会長)

20周年という事で、文化協会さんも工夫していろいろな事業をされているみたいですね。ときどきはされているとは思いますが、乳幼児を子育て中のお母さんが、ちょっと子どもを預けてゆっくり音楽を楽しめるようなそんなコンサートがもっと増えればいいかなと思います。それぞれイベントカレンダーとかでお知らせしてくださっていますが、文化に特化したようなお知らせというのは行っているのでしょうか。これは大人向け、これは子どもたちが楽しめるんだよみたいな。私たちはこれをいただくのすごく見えるんですけど、市民の方にもそんなのが見られたらいいのかなというふうにちょっと思ったりしました。なかなか本当にいっぱいお知らせしてくださっているんですが、皆さんに浸透しないので、私たちももっと知らせていこうと思うんですけども、20周年に関してもたくさんの方に来ていただきたいですから、その辺も工夫出来たらなと思いました。あと、前も調べていただきましたけど、学校で観賞とかもされているみたいですが、出来れば、古賀市では表現活動のほうを、古賀委員がいらっしゃるときにも話されていましたが、ドラマスクールの形で子どもたちが自分で表現するような、

文化協会さんとかもされているかもしれませんが、そういうのが小中学校の中に入っていくと、そういうのはクラスづくりにも役立っていきます。今発達障害のお子さんたちも結構多いですね。そういうお子さんにも、効果があるようでしたし、コミュニケーションが取れるようになっていくというのがありますので、そういうこともちょっとそれぞれが選んでいくというのでもいいんですけど、学校が一番みんなが出来る場所なので、そういうところでそういうものがあればいいかなというふうに思いました。20周年については、今、文化協会さんが星空のコンサートと、芸文のつどいをされるということですけど、他には何かありますか。文化的なところは文化協会さんが担われるということですね。結構すぐに来るので準備が大変かと思いますが、よろしく願います。ありがとうございました。

(緒方会長)

中山委員の話ですけど、こういう年間の文化芸術カレンダー、皆さんこれ見て楽しみにされるっていうのかな。今月これあるな、来月これあるなって、みんな予定に組み込めるようになるというんだけど。例えば計画をつくる時でも、プラットホームとしてここに行けば情報が得られるっていう場所について、年間のこういうカレンダーがあり、そこから具体的な日程なり開催内容なりというところにまとめられるといいねということをお話してました。どんな進捗ですか。

(事務局)

文化芸術に特化した年間カレンダーは現在は配布はしておりません。ただ文化事業も含めた年間の行事予定カレンダーとして、大きな事業のみ掲載されたものを発行しております。月行事に関しましては行事予定表のほうで、担当課が記載された曜日ごとのイベントカレンダーは毎月発行されている状況です。あと、子ども向けのものに関しましては、3カ月単位で「こがっち」というものが学校を通して配布されています。

(緒方会長)

まあすぐには言わないですが、今後、課題として市民の方々が年間を見渡せるというかな、そういうカレンダーがあればいいですね。それと同時に、私の子どもがなのか、私がなのか、対象が見えるとよりいいんじゃないかなと思いますね。乳幼児向けとか、児童向け、とか児童生徒向けとかわかれば、よりいいんじゃないかなと思います。私行けるのかしら、大丈夫かしらということは、事業の名前見るだけじゃなかなかわかりにくいところもあるかもしれない。例えば、赤ちゃんおはなし会と土曜お話し会というのがありますが、それぞれ対象がわかれば予定に入れやすいですね。セカンドブックおはなし会、土曜おはなし会、赤ちゃんおはなし会、小さい子のお話会、ターゲットがすごく分かれているみたいなんだけども、どこら辺がターゲットなのかなってもうちょっと見ると、より続けて参加できる条件が整えられていくんじゃないかなと思います。色々忙しいでしょうからすぐには言いません。より市民慮るっていうのかな、市民の方々に情報を丁寧に発信していくっていう整備も必要なのかなと思います。

(加藤委員)

最近感じるのは、約20年前と比較して古賀の歴史や史跡に関心のある方が増えたかなという感じがします。今中村市長ですけども、それ以前の森市長の時代で市長が話の最初に必ず言うのが、何もないのが古賀らしいところですというあいさつ必ず出ます。だから、市民も本当に古賀って何もないのかなという感じ方をしてあったんじゃないかなと思います。今回船原古墳関係とかもあるのかもしれませんが、個人の研究者、実は表に出てないけどもかなりいます。独自にお付き合いはしていますが、そういう中で、今回このカレンダー中にも自然史歴史講座、あるいは今日配ってもらった文化協会のちょっと贅沢コンサートですかね。同じ6月に薦野で天降神社の史跡案内とかもあります。こういう事業もかなり多くなって、今年の筵

内のなの花まつりがあったんですけども、同じ日に薦野の方々が薦野公民館で実は歴史の講演会しておったわけですね。要するにブッキングしとるんですよ。史跡案内ボランティアの方もいらっしやいますし、他にもいろんな団体がいます。だからその辺リンクして、なるべくブッキングしないような手立てが今後あるんじゃないかなということも考えています。それと、ここに載せるときに誰が案内するのかなというのを書かれたらどうか。多分、両方とも史跡案内ボランティアが依頼されるんじゃないかなと思いますけれども、実は私も独自で直接家にこられて案内を頼まれる時もあるんです。だから、案内を誰がするのかというのを書けたほうがいいのかという気がします。

(西野委員)

今、加藤さんいいことおっしゃって、この日たまたま薦野の話となの花まつりがブッキングしまして、ご承知のように、なの花まつりのときはJRウォークがあっておまして、ブッキングしちゃったんですが、私どもも薦野の話聞きに行きたかったんですよ。自分たちの仕事があるもんだからJRウォークの中で、だから行なかったんですよ。これは難しい問題でね、加藤さんは加藤さんで独自に動かれて大いに結構、私どもからそれは良い悪いとか言う問題じゃない。お互いに協力し合わなくちゃいけないし、たまたまそういう現象がありましたので、私どもも行きたかったんですけどね。

(緒方会長)

やっぱり情報のプラットフォームみたいなものがあると、そういうバッティングを少しでも減らせるのかな。イベントをしやすい、多い時期は重なりがちなので仕方が無い部分もありますが、予め情報がある場所があればね。電話で毎回どうするどうするって聞くわけにもいかないし。それでは、次、坂崎委員お願いします。

(坂崎委員)

これまでも審議会のほうに長く出させていただいて僕の位置というか役割はなんとなく感じておりますので、少しはラディカルなことも言っておかないといかんのかなと思っております。その中で最近いろんな活動して思うのは、やっぱり人材の育成とか、今はそれが足りているかというところじゃないかなという現状かなと思います。そのことを前提にですが、ここにいっぱい文化芸術関係の事業がありますが、私は個人的にはどちらかと言うと前にも申しましたし、いつもそう思っておりますが、もう少し減らすという傾向でもよかろうと思っております。特に似たような事業だとかターゲットも似ているものは減らしていても特に支障はないかなというふうに思っています。それは質はその分を上げる必要があるかなと思います。数は減らしていいかな。例えばすごく変な対比かもしれませんが、学校と地域コミュニティでいろんな事業をやる中で、私は10年ほど前に小学校でPTAの役員をし、今中学校に関わっておりますが、どこの学校も不思議なことに生徒数は半分くらいになっているのになぜか役員数は同じとか。そういう制度的な変なデザインがずっと残っているようなことと似て、古賀市も人口はこれから減る傾向にあるわけですから、10年も20年後にこれと同じ事業を必要かという私はそうじゃないんじゃないかなというふうに思います。その中でもうちょっと精度を上げる必要もあるし、それぞれ事業の中でもっとこんなふうに改善する余地があるんじゃないかということたくさん見ているような気がします。自分で出来るところはやりたいと思いますし、皆さんと協力しながらやらないといけないところは協力し合いたいなというふうに思っているところです。その中で、新しいことをやりながら、人を育てるというのは非常に大事で、今までのやり方で今までと同じ価値観をずーと構築していてもそれは多分今いる人たちでやろうというようなものにつながって行って、結局その結果新しいものが生まれてこないというふうなことになっているのかなと思います。僕は自分の仕事やいろんな事業をやっていく中で、い

つも若干人手不足のまま始めて、その中で育ってくる人たちを育てながら事業を運営することにすごく重きを置いてやっているわけですが、それが出来るような内容に少しずつシフトしていればいいかなと思います。それをやりながら、振興計画を作って数年経ちますが、プラットホームということが非常に大事にして計画をつくった中で、まだ実はそのプラットホーム化されたものが整備されてないように感じております。先ほど緒方会長からご指摘ありましたが、なかなか情報も一元化されていなかったりというのはもう4～5年前から言っていることです。もう少しここで出来ることがあるんじゃないかなと思います。精度は上げる、整理をする、その中で新しい人材を育てていく。例えば、今度宗像が世界遺産登録スケールとしてはコンパクトになりましたが、登録されてこれから人がすごく動いていくだろうし、ましてやそれだけ人や事業が動くということは、イコールお金も当然ついてくるわけですが、そこにものすごくエネルギーが使われるのに、近隣にここに古賀市があってあまり関係ないことをまずないわけで、非常に出来ることがいっぱいあるはずなんですよね。今までどおりのやり方でそれをやるのではなく、やっぱり新しい人たちにやる責務もあるだろうし、そういう機会を作っていくのもこういう場所の責任かなというふうに考えているところです。小学生、中学生は相手にした事業を私は学校や地域コミュニティの中でやっていますが、彼らも5年10年ぐらいで終わって、社会に参画してくる年齢になります。アート・バスやいろんな事業をとおして、私も手伝いはしていきたいと思っていますし、そういう人材を確実に育てるような事業をしたいと思っています。この中の事業もぜひそういうものにつながるものになればいいなと思うところです。

(緒方会長)

熱いメッセージをありがとうございます。やはりその発達の段階で、いろいろなプログラムが用意されていると思うんですよね。だけれどもそれを全体としてこの時期にはこういうプログラムをやろう、それが今度学年上がってくるとこのベースがあるからこそ次につながっていく。それが中学につながっていき、さらに彼らが高校生になり、今度はその地元で就職する。やはりその子どもの頃の体験というのがベースになって、自分たちは古賀でどういうことが出来るのかなという流れがすごく大切だと思いますし、今の話聞いている中では、やはりこれだけのボリュームをそれぞれの係が遂行していくっていうのはすごいエネルギーかけていると思うので、整理整頓というのもすごく重要だし、整理整頓する中において、今、古賀の文化活動、ましてや市民がどんな文化的なニーズを持っているのかを踏まえながら、やっぱりスクラップアンドビルドしていくということも念頭に置くことも重要なんでしょうね。

(志賀委員)

私どもはやっぱり団体の中で、それぞれ若い人を育てるということを1番大きな目標にしておりますし、私どもも高齢になりました。後を誰が継いでくれるのかっていうのを、育てながら、探しながらっていうのを心がけております。今回の芸術祭も若い光永ゆかり先生っていう方が、運営委員長を引き受けていただきまして、これは画期的なことで、常任理事でもありませんが、団体の指導者であって理事であられます。その方がお手を挙げていただいて、芸術祭を仕切っていただきました。早速に新しい風がやっぱり吹き始めます。これはよかったなと思って、これから光永先生を育てながら、また私どものリーダーにさせていただきたいなっていうのを理事一同思いました。こういうスタンスで、若い人を一人ずつ育てるっていうのが地道な活動の一つかなと思います。それともう一つ、夏休み子ども体験教室っていうのを文化協会です3年間、これは補助事業ということでさせていただきまして、とても好評でございました。続けたいので何とかありませんかっていうことでいろんな方面に働きかけたいしましたが、予算がないっていう事業に対しては文化協会ができないというふうなお話になりまして、それではいけない

んじゃないかと。私どもの文化協会では、集う、育む、きらめく、いろんなテーマを幹として掲げて進めております。子どもに対しては、育むという大きな目標があります。このまま引き下がるわけにはまいりませんので、私ども実行委員会というものを立ち上げまして、文化協会さんには共催をいただくという形で発信していくつもりです。募集をかけましたところ、27団体の先生方が心を一つにいただきまして、私たちは何もその報酬とかいららないんだと、やりましようっていうふうなお答えをいただきまして、早速に、校長会、教頭会にお願いしていくつもりです。これは今年も子どもたちにいろんな体験をしていただくっていう場を私たちがやらなきゃならないという気持ちで進めていこうと思っております。大きなことはこれだけです。その節はどうぞご協力よろしくお願ひいたします。

(緒方会長)

何事をするにあたってもお金が必要であって、それは市のほうとか、文化協会のほうとか、いろんな形で今までの支援をしてくださっていたかもしれない。ただやっぱり行政っていうのはある程度形が出来ると、自主財源で頑張ってくださいよというようなことは当然出てくる。そのときに、団体として外部資金というのかな、どっか求めなくちゃいけない。そうすると、わりと取りやすいのは、子ども夢基金というのが取りやすいですね。これは出せばほとんど通ります。これは子どもに特化した今のような活動に対して、10万から50万100万とか取れたりします。これは10月ぐらいから募集がかかって12月が締めですかね。あとは、文化庁も子ども関係への事業に対して、実行委員会形式ですけども、少額の補助金を出すというのも非常に多くなっているんで、そういうところにエントリーしていくことで、自分たちは自分たちでちゃんと金取るぞと。取っているんだから、古賀市のほうにもうちちょっと支援してよというようなことも言えるのかなというふうに思います。27団体がそれに対して応援するぞと、指導者出すぞと云ってくれてるわけなので、やっぱり続けなくちゃいけないと思うんですね。続けるための外部資金を獲得の情報は、市のほうがくれると思うんですよ。それと申請書の書き方とか。やっぱり申請書の書きぶりで取れる取れないとかあるからですね。本当に続けてほしいなど。続けるに当たっては、今言ったように子ども夢基金は結構お金取りやすいので、そこら辺をチャレンジするといいいのかなと。続けられますよ。

(志賀委員)

ありがとうございます。補助金申請も、九電だとか、夢基金だとか探りました。でも時期的には合わない、今回は間に合わなかった。でも続けますうちの事務局が申しておりますので、それに賭けながら続けるということをやりたいと思っております。

(緒方会長)

九電の未来財団、これも子どもに対しては出してくれたと思うので、時期があると思いますが、よろしくお願ひします。

(豊村委員)

東中の美術教諭として事業で関わりがあるものを見ていったら、このアート・バスですかね。最初は結構、無理やり行かせるんですよ生徒を。美術部の顧問しているんですけど、美術部の子を最初は無理やり行かせるんですけど、どうやったって聞いたら、めちゃくちゃおもしろかった先生って言って。やっぱり本物を見たりすると、ただ上手いだけがアートじゃないって、そういうところが深まってくる。やっぱり先輩がおもしろかったよって言ったら、次の子もすんなり行ったりして。結構東中はコンスタントに行っていますね。美術部だけじゃなくて、授業でもうちちょっと興味が持てるような何か働きかけをしていかないとなくなっていくのが、一つ自分の課題として思っています。先ほど精査したほうがいいのかというお話が出来ましたが、私が少し困っているって言い方したらおかしいんですが、こども美術展が2月に入ってますよね。作

品の締め切りが昨年9月ぐらいだったんですけど、まずちょっと作品がどうしても出来てないっていうのと、生徒に呼びかけてもじゃあ私がつて描いてくる子はいないんですよ。9月で毎年どうやっていたかっていったら、美術部の作品展が11月にあるんですけど、それに出した作品をこども美術展に出したりとかですね。それも去年間に合わなかったので、書道の上手い子に頼んで20点無理やり書いてもらったっていうのが実情でした。出すんだったらやっぱり質の高いものを出したいなと思うんですけど、実は1月～2月に糟屋の美術展とかいうのがあって、そこに結構上手な子のは全部出すんですよ。だから、残っているやつを出すっていうのもなんか嫌だなと、嫌だなっていうのも変なんですけど、何かこう、うーんという感じで、本当はそこに出したやつを古賀の中で、また精査して飾れたりするほうが見る人も飾る意味もあるのかなと思ったりですね。古賀市は結構絵を出してくれてることが多いんですよ。ポスターとかでも人権ポスターとか、明るい選挙とか。いろんな課から依頼が来ますので、どうしてもこども美術展の方まで手が回らないっていうのが正直言って実情です。

(緒方会長)

そうすると先生のほうでは、これいいなと思うものを糟屋に出すと。糟屋の方は表彰とか何かあるんですか。

(豊村委員)

あります。糟屋郡の16校の教師の中でも必ず毎年場所を決めて展示会やっているので、大きいんですよ。そこから県の方に作品が行ったりするので、出来ればそこに出した絵の上手な子の作品を持っていけたらもっといいんじゃないかなと思うんです。

(緒方会長)

例えば、先生の今の話でいうと、2月にこども美術展があると。それとは別に、市内の美術の教員の方々も同じようにそれぞれの糟屋郡の美術展に出すんですよ。その中で、古賀市民の方々に見てもらいたいということを考えるならば、どうしようかと9月締め切りでやりくりするよりも、締め切りの時期をもうちょっとずらすことが出来るならば、例えば、4月の初めだとか、そうするならばよりスムーズに今の子どもたちの作品も出せると。

(豊村委員)

他の2校の先生がどういう感じで出しているのかはわからないんですけども。

(結城委員)

美術展はもう9回ほどになるんですけども、先生が今、中文連に出された糟屋地区での美術の作品が終わって、展示が終わってから回すとおっしゃったんですけど、小学生の作品も読書感想文に出したものを、作品の裏に申し込み用紙が重ね重ねはったものが古賀の美術展に回ってきたので、私たち実行委員としては少しがっかりした気持ちがあるんですよ。古賀市こども美術展のために書いてくれた作品じゃないというようなのが何か感じられて28年度はテーマをつくりました。古賀のすてきなところとか古賀の中の好きな場所とか、好きな人とかですね。9月までと締切日を早くしてしまったんですけども、一つ失敗したのは、夏場に版画はちょっとインクの関係で難しく、もう少し涼しくなって版画を製作するので、募集期間はもう少し後にしてほしいという、そういう先生方の声もあったんですけども、ずっとやっていて、私たちはやっぱり古賀のこども美術展は、古賀のためにつくった作品を出して欲しいなっていう思いだったので。

(緒方会長)

運営側の思いと、実際現場にいる教員の思い、そしてそばにいる子どもたちの関わりを考えると、主催者側の思いと、現場との間がありそうだから、上手いこと話が出来るといいですね。やはり先ほど中学現場の状況を丁寧にお話いただいたので、本当に子どもたちや先生方にこれ

もお願いしますね、あれもお願いしますねということで、何か本当に応募に追われているっていう現実もあるみたいですね。ただ、主催者側の方は、古賀の子どもたちに、いうならばオリジナルの作品をなるべくなら出してもらえればいいなという思いがあると。そこは話を時間をかけないといけないのかなと。

(坂崎委員)

志賀さんも一緒ですけど、こども美術展についてはこの前一度終わってから会議をしたときにその話になりまして、指導主事の先生がいらっしゃったので、そちらのほうからリクエストとかこういう現状なのでとお話伺って、これにも申し込んで欲しい、これにもとすごくリクエストが多くて実質間に合っていないというのが現状ですよ。僕の立場として、僕は実は文化協会のほうに理事で属しておりまして、美術展の方は運営委員としてお手伝いしているのと、もう一つはMOA美術展っていうのをやっているんですが、これは全国規模のやつでやっているんですが、こちらは審査員をさせていただいて、両方の様子を見て、ちょっと不思議だなと思うことがあります。どちらも市の補助事業だったり、委託だったり、なぜか美術展は二つある。私個人的なところをお願いしたのは、コンテストの機会より絵を描く練習、学ぶ機会をもうちょっと充実させてほしいと。それをやって初めてコンテストがあるわけで、今美術の授業はすごく数も減って、今週一ですよ。子どもがスキルアップしているかという全然そうではなくて、審査をしても思いますが小学校6年生かな本当だと思うような絵が普通に毎年見てるので、もう少しその子どもたちが絵を上手になるトレーニングを事業としてやるほうがもちょっといいのかなというふうに思うことが多々あります。その中でコンテストは多いのに、校長会教頭会を通じてお願いしてますということで、学校のほうは先生たちに話がいくとどうにか集めなければならないという現状で、非常に先生たちも辛いですし、子どもたちも相当大変だと思うんですよ。たまたま私の自宅のほうで絵画教室をしているので子どもに聞くと、夏休みに4枚くらい描かないといけないとか言って、それはどうなのかなというところですね。それは最初お話ししたやっぱり減少していいだろうということですね。設計がちゃんと出来てないので、そこの設計はちゃんとし直す必要があると思うところです。こども美術展に関しては、今のこともお話しして、もう少しその辺見直そうというふうにこの前の会議のときに提案しておりますので、今年度はすごく改善するはずだというふうに思います。

(緒方会長)

絵を描くとかものづくりが嫌いっていう子どもを育てるためのコンテストではないからですね。そういう意味ではこのように本当に忌憚なくいろんな意見や情報を交換しあうからこそわかってくる場所もあるので、そこはやっぱり子どもたちがアートを少しでも好きになってくれる、続けたくてくれるそういう環境づくりというのをやっぱりこの審議会の中では議論していかなければならないのかなと思います。

(志賀委員)

こども美術展の作品の点数を見ますと、各学校を学年8点の1校48点というような数字を一応基本として出しています。中学校さんには書と絵を合わせて20点。その20点が出てこないっていう現状を見ますとね、そういう苦しみだけを与えて点数を求めるといのが、学生さんも描かないっていう現状の中で、美術展の対象に中学生を一緒に入れていいのかなっていうのは私もクエスチョンですね。この辺を改善して、小学生に特化して書と絵をとってしまったほうがいいのか。点数があまりに少ない。審査の先生からもちょっとねえ対象外よねという結果が出ているわけです。これじゃ何年たっても意味がありませんので、どこかで切って、何か大きいものを取り残そうという考え方になっていくのかなと思います。今から第1回目の実行委員会を6月にやりますので、そのときにちゃんとした結論を出したいと思います。また

早々と夏休み前に皆さんに募集をかけないと、夏休みの思い出とか、古賀のいいところとか、夏休み楽しかったことをテーマにすると、しっかりテーマに応じた作品が出てくるんです。これはテーマを決めてよかったなっていうのを実感しました。版画の件もありますので、11月末ぐらいに締め切りを持ってこようかなっていう案も出ております。とりあえずは第1回目の実行委員会の結果を私どもも踏まえて、粛々としてまいりたいと思っております。以上です。

(緒方会長)

年度ということで考えると、さきほどの例えばこども体験教室なども、坂崎委員の話じゃないけれども、そこで学校外のデッサン教室だとか、学校外の版画教室だとか、というようなものを設定して、そこでも作品制作が可能になってくるということになると、やっぱり今の学校の時間数が非常に限られているわけなので、学校にいろんなものをお願いするというのは難しい部分があると。体験教室というのでも、27団体全部が絵画に関係する団体ではないと思うけれども、そこでも子どもたちが学校外でも美術の時間を持つことが出来る。本当に好きな子は技術を高められる。そこで描かれたものについて、展覧会に出していくことも出来る。何かいろんな流れが、今学校だけの流れなんだけども、学校外からの流れみたいのが出来ることより少し楽になるのかもしれないです。とにかくもう多すぎる。やることが多すぎるんだと思います。

(平井委員)

いろいろ今議論を伺っていて、恐らく私はこの中で唯一恐らく古賀のことを知らずに発言するという大それたことをしないとイケないんですけど、逆に自由にお話をさせていただいて、参考になることがあればと思います。とにかく本当にたくさんのことをされていて、特に子どもに関するプログラムが非常に充実していると思いました。その中で、いろいろ話が出ていますけども、プラットホームとかですね、要はその今私がぱっと見てバラバラな感じがするんですよ。それぞれ頑張っておられるんですけど、どういう方針、考え方を共通に持ってこういうことを進めていくのかっていうところがあまり見えてこない。実は私は福岡市のほうで科学館をやっているんですね。10月にオープンするんですけど、科学は文化を創ると、科学は文化だということをテーマに掲げていまして、その中で子どもたちのためっていうのを外しちゃったんですけど、でもやっぱりメインは子どもが来るので、子どもたちをどう巻き込むかっていうことを色々画策していて、実は私のいる芸術工学研究院という、もとの芸工大なんですけど、普通、科学っていうと医学部とか法学部なんですけど、そうじゃなくて芸術工学部が中心になって、そこからサイエンスを入れると。ただサイエンスだけだと固くなるので、どうやってデザインが、サイエンスコミュニケーションという中で新しい科学とクリエイティブのあり方をつくっていくかっていうのを今やっているんですね。その中で一つの例が、人を育てるってこれまで言っているのを、人が育つにはどうしたらいいかっていうのをテーマに掲げていまして、子どものためにではなくて、ある意味子どもを子ども扱いしないといいますか、その中でどう育てていくかということを考えています。展示コーナーの横にですね、オープンラボっていうのがあって、夜にいろんなデジタルプリンターとか、3Dプリンターとか、木工金工が出来るようになっていて、要は見たものを表現出来るようなことをやっているんですね。それを未来創造サイクルと呼んでいて、要はその子どもたちが見て、そこで作ったものを、科学課の中で閉じるんじゃなくて福岡フィールドの周りの企業とか若手のクリエイターとか、サイエンティストと一緒に考えていくと。ラボで、22人くらいで子どもたちが入ってつくったものを対象に、いいものをみんなで投票して、それを半年かけて科学館のフューチャーステージというコーナーがあって、若手のデザイナーとか、科学者が入って一緒に育てていく、アドバイスをして。その過程を見せるということをやろうとしているんですね。話を戻しますが、たくさんプログラムがあって、ジャストアイデアですけど、私はエアキッズミュージアムが

あってもいいと思うんですよ。いろんなアウトリーチをやっているのは、実は目には見えないキッズミュージアムなんだと。エアって結構今使われていますよね。形のないエアギターとか。そういう意味ですけど、そういうふうの一つの目に見えないまとまりだとして、誰に対してどういうプログラムを提供するか。さっきみたいに美術展が重なっているんだったら、一つはワークショップして、子どもたちの発想する力を伸ばすワークショップでしたらどうかとか、そういうふうの一つのテーマをもとに横のディスカッションがプログラムごとに出来るんじゃないかなというふうに、いろいろ話を聞いていて思いました。

(緒方会長)

まとめていただいてありがとうございます。本当にそれぞれ皆さん委員の方から発言いただき、活発な議論をさせていただき、今年度も楽しい本会議になるんじゃないかなと思いました。今日の報告事項はこのカレンダーのみでしたので、皆さんのほうから色々ご意見いただきました。そろそろ時間もいい頃になってきましたので、これで報告事項を終了したいと思います。

6 その他の事項

①笑顔のつどいについて（生涯学習推進課社会教育振興係野田業務主査より説明）

②福岡県立美術館の展覧会のお知らせ（坂崎委員より説明）

③NPO 法人古賀市文化協会からのお知らせ（志賀委員より説明）

- ・第10回古賀市民音楽祭について
- ・NPO 法人古賀市文化協会総会資料について
- ・出前講座について

7 閉会のことば（星野文化課長）

【終了】